

# アフリカ農村における初等・中等教育の普及と地域社会に及ぼす影響

## —エチオピア南西部マーレを事例に—

平成 22 年度入学

参加したフィールドスクール：ナミビア・フィールドスクール

調査地：エチオピア南西部マーレ郡

有井 晴香

キーワード：学校教育、ライフコース、職業選択、地域社会

### 自分の研究テーマについて

近年、サブサハラアフリカ諸国では学校教育が急速に普及してきている。中でもエチオピアにおける初等教育の就学率はここ数年で飛躍的に上昇している。それに伴い、教育の質の低下、男女間・地域間格差の拡大などが問題としてとりあげられてきた。しかし、これらの議論は、統計資料にもとづくものや、国家の政策レベルの観点から論じられることが多かった。実際に就学者が急増したことによって、地域社会にどのような変化をもたらされたのかについて、具体的な事例に基づいて検討した研究はほとんどなされていない。地域社会の変化は様々な要因が複雑に絡み合って生じるものである。本研究では複合的要因のひとつとして教育実践に焦点をあて、近年のアフリカ農村で見られる変化を検討することを目的とする。特に学校数、就学者数が急速に増加しているエチオピア南西部マーレ郡の農村を事例として取り上げ、近年みられる初等・中等教育の急速な普及の背景とその影響を考察する。

### フィールドスクールから得られた知見について

今回のフィールドスクールでは様々な分野、角度から地域を分析することを学ぶことができた。特に自身の研究テーマからは一見かけ離れているように感じる自然環境を対象とした調査手法を実践的に学べたことは大きな収穫だった。地域社会の変化を捉える際に、ひとつの視点に捉われずに様々な要因を考えることは重要である。自然とどのように共存し、利用しているのか、という視点を得られ、目で見てわかる情報の大切さを実感できた。

また、学校訪問や、HIV/AIDS に対する取り組みについての講義を通して、自身の調査地の現状を相対的に見直す機会を得ることができた。設備の面ではナミビアの学校に大きく遅れをとっているものの、HIV/AIDS 問題に対する取り組みについて、学校教育では全く扱われてないナミビアに対して、様々な科目を通してカリキュラムに組み込まれているエチオピアの独自性を改めて認識することができた。

フィールドスクール全体を通して様々な分野のことを幅広く観察し学ぶことができた。しかし、せっかく充実した事前講義もあったのだから、事前に集められた情報と実際に現地で見られた情報を比較、検討するようなプログラムがあってもよかったのではないかと思った。現地で得られる情報の重要性を実感したからこそ、それをいかに活かすかを考える必要性を感じたからである。



ナミビアの小学校での授業の様子



エチオピアの小学校での授業の様子



植物の根と地層

### フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマに活かせるか

自然観察を通して、環境変遷を知ることは地域社会の変化を考える際にとっても重要であると感じた。私の調査地は農村部で人の手が加わっていない自然が多く残っている地域なので、自然と人との関わり方を研究の視点に加えることは非常に有意義であるということを理解した。